

パチンコのこれから探訪

— デイサービスでのカタチ —

パチンコをリハビリテーションに取り入れている施設を訪ねました



業界の未来を嘆くヒマがあったら足を使いパチンコの可能性を探すのが当企画。今回はパチンコ台を導入した高齢者福祉施設に行ってみた。

取材・文/マリフ鈴木

始めなきっかけは?

高齢者向けの施設でパチンコ台や雀卓、バカラテーブルなどを導入しているラスベガス。名前のイメージに相応しく、楽しむために創られたような雰囲気のある福祉施設が巷で好評となっている。ゲームセンターでもホールでもない場所でパチンコ台が相付いている実態を探るべく、施設の代表取締役社長である森薫さんに話を聞いてみた。

「この施設を始めようとしたきっかけは何だったんですか?」「きっかけはアメリカのラスベガスへ行ってきたことです。そこで高齢者の暮らしを視察、研究しました。向こうの方は介護が必要な方でも分け隔てなく遊んでいるんです。日本よりもギャンブルへのイメージが悪くないんですよ。楽しく社会的にオンチャレをして、まるでスポーツを楽しむかのように遊んでいる。私自身もいずれ高齢者ですから、そんな方々を見てうらやましいなあとという思いがありました。日本にそういう場所がないのは寂しいなあ、と」

それが個性的なデイサービスの成り立ちとなったんですね。「基本的には普通のデイサービスなんです。ただ、高齢者の中には介護を受けていることを表だてて言いたくない方も多いので選択肢として自由な施設もあればいいなと思いました。送迎車も一般的なハイエースではなくアルファードにして高級感を演出しています。もちろん車椅子も入るので介護用に改造する車よりも



海物語を打つ利用者さん。SP発展時にボタン連打する姿はバリバリの現役だ。

利用者に喜ばれる大人の社交場としてのサービス

- 施設内通貨(ベガス)での施設利用
- 個人でなにを楽しむかを選べる自由
- カジノを通じての自然なコミュニケーション
- デイサービスを感じさせないくつろぎ空間
- 「年寄り扱いしない」自立支援

ラスベガスでのゲームはパチンコにしても麻雀にしても全ては共通の通貨、ベガスをやり取りする。もちろん、ルール上お金のやりとりは当然できないが、機能訓練を待つ合間でも楽しんで時間を過ごすことが人気の秘訣だろう。また、介護用のベッドではなくリクライニングソファを多数用意したり、個人の自主性をできるだけ尊重したりと、利用者に介護と意識させないサービスも特徴だ。

実際にどのようにパチンコや麻雀等を行っているのか。そこには利用者さんが介護っぽさを感じず、より楽しむためのルールがあった。「(写真参照)このお札ってゲームで使うものなんですか?」「はい。朝昼に15分ずつストレッチをしてもらうんですけど、そこで1万ベガスずつ合計で一日10万ベガスをお渡しして、それをゲームの中でやり取りするという仕組みになっています。麻雀ですと、場代が1万ベガスで1着が2万ベガスをもらえるという具合になっています。一日にもらえるベガスの中で、ご自身の好きな遊びが楽しめるようになっています。押し付けられる意識ではなく自己選択の意識を持っていただくことが大切ということが国内、海外を含めて様々な施設を視察してきた上で思ったのでそういうルールを設けております」



ベガスの中には、通常のゲームで使われるものだけでなくチャレンジを達成することで手に入る記念紙幣版も存在。

利用者自身の変化

高齢者に自主性を促したり真剣にゲームを行ったりすることには非常に意義があることだと森さんは言う。「10年ほど年々少しずつ計画的に物事を段取りをすることが難しくなっています。中には認知症の症状が出てしまうケースも少なくないのが現状です。なので、そこに刺激を与えることは良いことだと。僕自身もその中で詳しくは知りませんが、認知症分野の先生や脳科学の先生も仰っていることなんです。パチンコ分野でも藤原菊紀先生(パチンコと脳について研究されている科学者)が研究されているじゃないですか。なので、全てが解明されていない中でも専門家の方たちと協力して色々取り組みたいと考えています」

利用者に変化が起きていることがある。利用者に変化が起きていることがある。利用者に変化が起きていることがある。利用者に変化が起きていることがある。

ない等の症状の方が遊びのルールを次回も覚えていく、明日は月曜日だということ事を口にするようになったケースもあります。「症状が改善された」と「あくまでそのような症状の進行を緩めた」というのが現状ですが、利用者の方が家族に今日何ラッスベガスの日だね。と笑顔で伝えてくれたというお話を聞きました。当施設を利用するのを楽しみにして頂いてリハビリの効果も出ている。こんなに嬉しい事はありません」

高齢者への願い

ベガスのやり取りには日々の刺激以外にも、大きな意図を込めていると森さんは言う。そこには福祉施設を運営する者としての高齢者に対する幸せを願う気持ちがあった。「普段、利用者さんがゲームでやり取りしているベガスではないものがありますね。この100万ベガス札ってどういうのは何ですか?」

「楽しい」だけではなく「悔しい」も大切な感情

「特産物とか有名な建物を描いてご当地のものになっているんです。」「記念紙幣とか記念切手って皆さんの好きじゃないですか。挑戦達成した時に記念写真を撮って、そのお札と一緒に個々に持っているアルバムに入れてるんです。在宅ではなく、入院や入所されることになった時にその先で誰かとの話のきっかけになってくれればいいなあという願いがあります。お見舞いきたお孫さんでもないんです。ベガスってところがあってさあ、と誰かに言っていたらげればと思うんです。皆さんが後々に過す場所での手助けができれば、という気持ちで作ったお札ですね」



施設の経緯から自身の理念までを気さくに話して下さった森さん。非常に研究熱心な方でした。

麻雀を覚えた方もいましたし、現場ではそこまで心配はありません。「今後の課題はありますか?」「利用者さんの支持もあって施設としては順調なのですが、高齢者でも元氣な人しか楽しめないんですよ、といった誤解をなくしたいです。だって、元氣なら自分でパチンコ屋さんや雀荘に行けるじゃないですか。あとは、遊んでいるという意味合いも正確に知っていただきたいです。過去に取材もなしにネガティブな内容を掲載されたこともあるので」



ゲームの合間に休憩する場所には、介護ベッドではなく、介護っぽさを感じさせないソファを用意。



「先にお話しした事を次にお会いした時には忘れてしまう、曜日感覚が」という。美例も踏まえ「引き継ぎ、話しをこぼしていった」



冗談や会話が行き交うテーブルもあるが、真剣な人のほうが多い。お金を賭けることなく真剣勝負が成立しているのは、ラスベガスのような雰囲気がある内装のお陰もあるとのこと。

高齢者ではなく「幸齢者」を増やす為に私たちが出来ること

「ベガスが貯まると、皆さん換金したくなるじゃないですか。でも、換金できません。サービスにもなりません、というのルールが決まっています。なので用意したチャレンジ項目を達成したら100万ベガスと面替します、というイベントをやっているんですよ。例えばブラックジャックをMAX BETで5連勝すると兵庫県の100万ベガ

これからの課題

「ギャンブルに対するネガティブなイメージが邪魔をすることもあるんじゃないか」と心配にもなりましたが、実際にはどうですか?」「それに関してはギャンブルが嫌いな人は来ないという選択もできます。他の介護施設に合わせた利用者さんがここでは楽しんでいて、それが一番大事なのではないかと。うちのスタッフが嫌いな方が、施設の雰囲気が入ってルールを覚えたこともありましたよ。87歳で

今回ご協力頂いた施設

デイサービス・ラスベガス横浜都築店
 神奈川県横浜市都築区茅ヶ崎南 2丁目 19-10
 クレイズ仲町台 1A
 TEL: 045-949-0822
 URL: http://www.elderly.jp

取材日当日は同時にテレビの収録も行われていたほど各所から注目を集めているラスベガス。民法キー局も全て来たとのこと。今後はどんどんと各地にオープンしていく予定なので、家族に勧めたい方や近い将来入りたいという方はHPなどで調べてみていただきたい。パチンコ好きの老後には嬉しい施設だろう。